

第3学年 美術科学習指導案

日 時 令和6年5月31日(金)
 学 級 岩手大学教育学部附属中学校
 3年A組 35名
 会 場 美術室
 授業者 佐藤 陽

1 題材名 篆刻の制作

2 題材について

(1) 生徒観

表1は第3学年を対象に行った授業アンケートのうち4つの項目を抜粋したものである。約9割の生徒は、美術の学習に意欲的に取り組み、感性を広げたり深めたりすることができていると回答した。その一方で自分自身の感性に自信をもって表現ができていないと回答した生徒が4割程度おり、自信をもって表現を追求できるように指導を工夫することが課題と言える。授業中の様子を見ていても、アイデアスケッチなどで沢山のアイデアを出すことはできているが、最終的にどうするかを自分自身で決めることができず、どのアイデアがよいかを教師に決めてもらおうとする生徒が一定数存在する。他者とのコミュニケーションが発想を膨らませるために有効的に働いていることも踏まえて、生徒が自由に他者とコミュニケーションを取りながら協働的に活動できる環境と、生徒一人ひとりが自分なりの方法で表現を模索し、個別最適に活動することができる授業展開を実践していく。この2つの活動を一体的に充実させることで、自他の様々な感じ方や表現方法を互いに認め合ったり深め合ったりしながら、よりよい表現を追求させていきたい。

表1 美術授業アンケート（第3学年）

質問内容	結果	
美術の学習に意欲的に取り組んでいる。	そう思う	71.2%
	ややそう思う	26.3%
	あまりそう思わない	1.0%
	そう思わない	0.8%
美術の授業を通じて、自身の考え方や感じ方が広がったり深まったりした。	そう思う	62.7%
	ややそう思う	33.9%
	あまりそう思わない	2.5%
	そう思わない	0.8%
他者とのコミュニケーションから発想が膨らむことがある。	そう思う	64.7%
	ややそう思う	25.2%
	あまりそう思わない	7.6%
	そう思わない	2.5%
自分の感性に自信を持って表現できている。	そう思う	32.8%
	ややそう思う	29.4%
	あまりそう思わない	21.0%
	そう思わない	16.8%

(2) 題材観

本題材は、学習指導要領第2、3学年の目標(2)「自然の造形や美術作品などのよさや美しさ、表現の意図と創造的な工夫、機能と洗練された美しさとの調和、美術の働きについて独創的・創造的に考え、主題を生み出し豊かに発想し構想を練ったり、美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする」ことを主なねらいとし、〔共通事項〕の内容にあたる形や材料の性質、それらがもたらす効果を理解して表現や鑑賞の活動に関連付けながら、工芸について学習を行っていく。

本題材では、自分の名前をテーマにした篆刻の印面と鈕(持ち手)の制作を行う。自分の名前から生み出した主題を基に形を工夫して表現するとともに、鈕の握りやすさも考えるなど、用と美の調和を総合的に考えながら制作に取り組ませていきたい。近年、政府による『脱判子』の考えによって手続き上の実印や認印を使用する機会が減少している、図書館などに所蔵されている本に押されている蔵書印のデザインや、江戸時代の浮世絵で扱われた版画の技術など、判子は日本文化として優れた芸術的価値を含んでいる。そんな文化的にも価値の高い判子を制作する活動を通じて、自分自身と向き合うとともに自分の感性やそこから生まれたものに価値を見出し、自分自身を大切にしていける心を養うことができると考える。

(3) 教科研究との関わり(指導観)

本校美術科においては、育成を目指す資質・能力を表2の通り整理する。

表2

知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
対象や事象を捉える造形的な視点を理解するとともに、主題や場面に合った表現方法を生徒一人ひとりが追求して創造的に表す力。	感じ取ったことや考えたこと、目的や条件などを基に主題を生み出すとともに、対象の内面や本質を深く見つめたり捉え直したりしながら豊かに発想し構想を練る力。	多様な他者の考えを受容しながら協働して学びを深めるとともに、よりよい表現を目指して工夫改善を行いながら自律的に学習活動に取り組む態度。

上記資質・能力を育成するために、次の視点①②から指導を工夫する。

研究の視点①個別最適な学びと協働的な学び

本題材では、制作の主題である「自分らしさ」と工芸としての「用と美の調和」を追求していく方法として、個別最適な学びと協働的な学びを一体的に充実させることを目指していく。構想では平面によるアイデアスケッチだけでなく、粘土によるモデリングや写真への書き込みなど、それぞれの方法で構想することで個別最適な学びを充実させる。協働的な学びは、握りやすさや押しやすさを踏まえた「用と美」について他者の意見を踏まえて考えることと、自分自身で自覚している「自分らしさ」だけではなく、他者から得た言葉で改めて気づくことも主題に生かすことで実現していく。またウェルビーイングの向上について、個別最適に「自分らしさ」の表現を追求し、得られる自身の感性の価値から獲得的要素を、協働的な学びの中で他者の感性に触れ、そこから得られる自分にはない新たな感性の価値から協働的要素を実現していく。

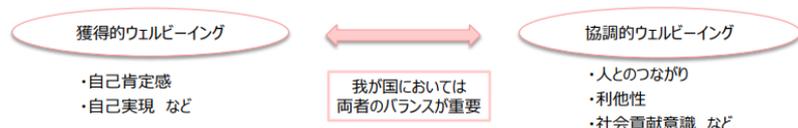


図1 第4期教育振興基本計画「ウェルビーイングの向上について」(文部科学省)

研究の視点②教科等横断的資質・能力の育成

本校美術科では、美術の授業で養う創造性が教科等横断的資質・能力の基盤となり、あらゆる学びに生かされていくことを目標に研究を進める。本題材は「用と美の調和」を目指した工芸の題材だが、美の要素には「自分らしさ」といった絵や彫刻で多く用いられる要素が含まれている。絵画や工芸といったジャンルを超えて造形的な視点を働かせ、複合的に表すことで新たな価値を見出し、創造性を養うことを目指していく。

本題材の1時間目で、印面の構想に向けて自分の名前のサインを考える活動を行った。線を工夫することで創造性を高めることを目指したが、この視点は第3学年が総合的な学習の時間(HS)の学習で行う地域課題解決プロジェクト「ちいプロ」のロゴマークを考える活動にも生かされた。また、本題材は「自分らしさ」だけを追求するのではなく、条件に応じて自分の中で最適解を探し、「用と美」を調和させて創造していく必要がある。この力は社会の創り手として求められる力であり、教育活動全体を通じて育成を目指すものである。本時は鈕に求められる要素と自分らしさの調和のとれた表現を追求させることと、追求の仕方でも自己調整させることで資質・能力の育成を目指す。

3 題材計画

(1) 題材の目標

【知識及び技能】

- ・形の性質や、それらが感情にもたらす効果、造形的な特徴などを基に、全体のイメージで捉えることを理解するとともに、材料や用具の生かし方などを身に付け、意図に応じ表現し、制作の順序などを考えながら見通しをもって表すことができる。(共通事項)

【思考力・判断力・表現力等】

- ・使う目的や条件などを基に、使用する者の立場、社会との関わり、機知やユーモアなどから主題を生み出し、使いやすさや機能と美しさなどとの調和を総合的に考え、構想を練ることができる。(Aイ(ウ))
- ・目的や機能との調和のとれた洗練された美しさなどを感じ取り、作者の心情や表現の意図と創造的な工夫などについて考えるなどして、美意識を高め、見方や感じ方を深めることができる。(Bア(ア))

【学びに向かう力、人間性等】

- ・美術の創造活動の喜びを味わい、意図に応じて工夫し見通しを持って表現する学習活動に取り組むことができる。
- ・美術の創造活動の喜びを味わい、造形的な良さや美しさを感じ取り、作者の心情や表現の意図と創造的な工夫などについて考えるなどして、見方や感じ方を深める鑑賞の活動に取り組むことができる。

(2) 評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
知 形の性質や、それらが感情にもたらす効果、造形的な特徴などを基に、全体のイメージで捉えることを理解している。 技 材料や用具の生かし方などを身に付け、意図に応じ表現し、制作の順序などを考えながら見通しをもって表している。	発 使う目的や条件などを基に、使用する者の立場、社会との関わり、機知やユーモアなどから主題を生み出し、使いやすさや機能と美しさなどとの調和を総合的に考え構想を練っている。 鑑 目的や機能との調和のとれた洗練された美しさなどを感じ取り、作者の心情や表現の意図と創造的な工夫などについて考えるなどして、美意識を高め、見方や感じ方を深めている。	態表 美術の創造活動の喜びを味わい、意図に応じて工夫し見通しを持って表したりする表現の学習活動に取り組もうとしている。 態鑑 美術の創造活動の喜びを味わい、造形的な良さや美しさを感じ取り、作者の心情や表現の意図と創造的な工夫などについて考えるなどして、見方や感じ方を深める鑑賞の活動に取り組もうとしている。

(3) 指導と評価の計画 (13 時間) ●総括的評価 ○形成的評価

時	■学習のねらい・学習活動	知・技	思・判・表	態	見取りの視点【評価方法】
1	■オリジナルのサインを考える。 ・名前を基に自分らしいサインを考える。			態表 ○	テーマを基に自分の感性や美意識を生かして表現しようとしている。 【振り返り記述】
2	■印面を構想する。 ・サインをヒントに自分なりに文字の形や線を工夫し、「自分らしさ」を表現する印面の構想を練る。		発 ●		自分の名前由来や生き方との関わりを考えて主題を生み出し構想を練っている。【ワークシート】
3 4 5	■印面を制作する。 ・篆刻の技法を理解しながら、構想を基に印面を彫る。 ・実際にできた判子を押し、確認しながら仕上げる。	技 ○	発 ○	態表 ●	制作の順序などを考えながら見通しを持って制作している。【ワークシート、観察】
6 本時	■鈕の形を構想する。 ・スケッチや粘土によるモデリングで試行錯誤しながら、鈕の形を構想する。 ・「用と美の調和」を考えて構想する。		発 ●	態表 ○	テーマを基に自分の感性や美意識を生かして表現を追求しようとしている。【ワークシート、観察】
7			発 ●		使いやすさや機能と美しさなどとの調和を総合的に考え構想を練っている【ワークシート】
8 9 10 11 12	■鈕を制作する。 ・制作の手順など見通しをもって鈕の面取りを行う。 ・様々な角度から観察し、美しさを持ちやすさの調和を考えながら形を作り、やすり掛けて仕上げる。	技 ○	発 ○	態表 ●	制作の順序などを考えながら見通しを持って制作している。【ワークシート、観察】
13	■完成した作品を鑑賞する。 ・お互いに作品を鑑賞しあい、感じたことや考えたことを交流する。		鑑 ●	態鑑 ●	他者の作品を鑑賞して見方や感じ方を深めている。【ワークシート】
	《授業外：題材終了後》	知・技 ●	発 ●		知・技形や素材の性質や、道具の扱い方を理解して表現している【完成作品、ペーパーテスト】 発使いやすさや機能と美しさなどとの調和を総合的に考え構想を練り、主題を表現している。【ワークシート、完成作品】

4 本時について

(1) 指導目標

鈕の構想のための方法を自ら考え実践するとともに、他者と対話も交えながら協働的に「用と美の調和」を追求する。

(2) 評価規準

主題を基に自分の感性や美意識を生かして、自分らしい方法で試行錯誤しながら「用と美の調和」を目指して表現を追求しようとしている。【態表】

(3) 授業構想

本時はこれまで制作してきた篆刻の印面を通じて考えた「自分らしさ」を鈕で表現するため、持ちやすさや強度も考慮しながら構想をしていく。印面を構想する際には、サインからヒントを得て文字の線や形を工夫し、そこに名前の由来や自身の生き方などから生まれる「自分らしさ」を加えて表現してきた。印面で表現できたことによって生まれた「自分らしさ」への自信や、印面だけでは表現しきれなかった自己の内面な

どを、第2学年で扱った抽象化や心象表現といった既習事項を振り返りながら、用と美の調和のとれた鈕を構想させていく。

導入では、これまでの活動を振り返り、自身の表現の意図や工夫してきたことを再確認したうえで課題を提示する。印面の中だけで自分らしさを表すことができているのか、鈕に必要な実用性とは何かを考えさせることで本時の課題意識をもたせていく。

展開では鈕の形の構想を行う。構想の方法は平面によるアイデアスケッチや粘土によるモデリングなど、生徒自身が方法を選択したり新たに考えたりしながら行えるようにしていく。様々な方法でいくつもの案を重ねていきながら、「自分らしさ」のよりよい表現を追求させていく。またこの時間は生徒が教室内を自由に行き来できるようにし、サンプルの石を磨いてみたり、友達と協働で自分らしさや持ちやすさについて考えたり、教師が提示した方法以外のやり方でも追求できるよう促していく。教師は適宜机間指導をしていながら各生徒の活動の過程をモニターに投影し、様々な追求方法を全体で共有していく。その際、改善点や更に深めてほしいポイントなどを全体に問いかけ、生徒が課題意識を持って最後まで試行錯誤し続けられるように方向づけしていく。

終末では本時の活動の成果を、ワークシートを用いて全体で共有しながら振り返り、次回以降の制作により生かせるようにさせる。

(4) 本時の展開

段階	学習内容および学習活動 ・予想される生徒の反応等	指導上の留意点および評価 ・指導の留意点 ○評価
導入 5	<p>1. これまでの活動を確認する。 (1) 自身の表現の意図について再確認する。 (2) 「自分らしさ」と「実用性」について考える。</p> <p>2. 学習課題を提示する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; text-align: center;"> <p>「自分らしさ」と「実用性」の調和のとれた鈕（持ち手）を表現するためには？</p> </div> <p>・実用性について確認する。 【例】 ・持ちやすい ・押しやすい ・強度がある</p>	<p>・テーマを基に自分なりに工夫したことを再確認させる。</p>
展開 35	<p>3. 活動の見通しをもつ。 (1) 鈕を構想するための方法を確認する。 (2) ワークシートを用いて、構想のための視点を確認する。</p> <p>4. 構想を行う。 【生徒の活動例】 ○＝教師が提示するもの</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>○平面によるアイデアスケッチ（見取り図と展開図） ○粘土によるモデリング ○サンプルの石を実際に削る、磨く ・友達との交流 ・他学級のモデリングの鑑賞 ・iPadでの調べ学習 ・iPadで写真や画像に描き込み構想 ・「自分らしさ」について再考</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>予想される生徒のスケッチとそれに対する教師の問いかけ ①持ちやすさや強度を意識できていないスケッチ ⇒「改善できる場所はどこか？」 ②具象的なモチーフのみで表そうとしているスケッチ ⇒「それだけで自分らしさは本当に表せるのか？」 ⇒「今までの学習で生かせることは何か？」</p> </div> <p>5. 構想を整理する。 (1) 構想したものをワークシートに記録し、表現意図や工夫したこと、用と美のバランスなどをまとめる。</p>	<p>・用と美の調和のとれた構想のための視点を持たせる。</p> <p>・生徒の動きを想定しながら道具等を配置する。 【例】 粘土の近くに他学級のモデリングを置いておく→他作品を鑑賞する サンプルの石の近くに教師の参考作品を置く→握り心地を確認する</p> <p>・生徒の制作過程を観察し、改善点や表現を深められる視点を全体で共有する。</p>
終末 10	<p>6. 本時の学習の振り返りを行う。 (1) ワークシートの内容を全体で発表、共有する。 (2) 本時のまとめをする。</p> <div style="text-align: right;">  </div>	<p>○主題を基に自分の感性や美意識を生かして、自分なりの方法で表現を追求しようとしている。 【態表】</p>